

三重大学医師会設立趣意書

近年、大学病院を取り巻く状況は、国立大学の法人化、新医師臨床研修制度の実施、臨床研究に関する倫理指針の施行など大きく変化しています。そのなかで、診療面では難治性疾患などに対する専門的高度医療や若手医師の臨床研修などを担うほか、学部学生の卒前教育に欠くことのできない存在です。更に疾病の原因同定、発症機序の解明、診断法や治療法の開発など高度先進医療を目指した医学研究を担っており、大学病院には他医療機関では代替できない大きな責務があり、それは着実に増大しています。また、OECD 諸国に比し極めて少ない教員数でありながら、個々の献身的な努力により世界のトップレベルの診療や研究を行い、我が国の医療保健の向上に寄与しています。国の医療費抑制政策の波は大学病院にも押し寄せており、医療・医学教育のレベルやサービスの向上など業務負担が増加し、若手・中堅医師を中心に多くの医師、医療従事者は疲弊しています。このまま放置すれば大学における医学と医療の荒廃が進み、近い将来に日本の医療全体が壊滅的なレベル低下を招くと危惧されます。大学医学部と大学病院の機能が低下することは、医師・医療機関のみならず国民にとって、その影響は甚大であります。

このような危機を目前にして、大学における医学教育・研究・診療をあるべき姿に向わせることを目的として、平成18年には大学病院医師会連絡協議会が設立され、これまでに61の医科系大学において大学医師会が設立されています。しかし、三重大学病院には大学医師会はなく、また、三重県・市医師会に理事・参与を送り出して医師会活動との連携を持っていますが、主体的な活動は行っていないのが現状です。

このたび、医学・医療が直面する諸課題の解決に向けて、三重大学に勤務する医師の結束を図るとともに大学病院の持つ特性を生かした活動を行なってほしいと、大学病院医師会連絡協議会ならびに三重県医師会から要請を頂きました。これらの要請に応えるとともに、大学病院勤務医師の立場を改善するために、自発的な組織として、また、より自由かつ柔軟に医学・医療が直面する諸課題の解決に向けて活動し、社会に貢献する組織として、三重大学医師会を設立するものです。

このような趣旨にご理解とご賛同を賜り、三重大学に勤務あるいは在籍される医師の皆さまには、是非とも三重大学医師会にご加入下さいますようお願い申し上げます。

平成25年3月吉日

三重大学医学系研究科長 登 勉

三重大学医学部附属病院長 竹田 寛

三重大学医師会設立準備WG

医学系研究科教授、県医師会理事 水谷 仁

医学系研究科教授、附属病院副病院長 富本 秀和

附属病院准教授、津地区医師会理事 内田 恵一

附属病院准教授、県・津地区医師会員 兼児 敏浩